

施策番号	4
------	---

施策評価シート（評価対象年度：令和2年度）

基本政策	1	子育て・教育・学び
施策名	4	郷土の歴史・文化
10年後のまちの姿	○歴史・文化に触れることを通じて、多くの市民が郷土への関心や愛着を深めています。 ○歴史・文化に関心を持つ市民による自主的な取組が生涯学習活動や地域の活性化につながっています。	
施策展開の基本的な考え方	行政は、まちの財産である文化財等の保存・継承に責任を持つとともに、その実現のために文化財等の魅力を伝え、その活用を図ります。 市民等は、身近なまちの歴史や文化に関心を持ち、その魅力について周りに積極的に伝えることに努めます。	
実現に向けた取組	①文化財の調査と保護 ②伝統文化の保存と継承 ③歴史・文化資源を生かした地域の活性化	
施策担当課・係	生涯学習課 文化・文化財係	
施策関係課・係	商工観光課 商工振興係	

I 施策の実施状況

1 施策全体の事業費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費（千円）	51,678	38,085	35,974	29,001	
事務事業数	9	9	9	9	
うち、事務事業評価対象	9	9	9	9	

2 成果指標の達成状況

指標	単位	基準値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度 中間目標	令和8年度 最終目標
国県市指定文化財数〔累計〕	件	92	92	92	92	92		97	102
伝統芸能等保護活動団体数	団体	10	10	10	10	10		10	10
文化財施設（奥山荘歴史館、黒川郷土文化伝習館、シンクルトン記念館、胎内市美術館および桃崎浜文化財収蔵庫）の入館者数〔年間〕	人	10,480	14,239	14,264	10,943	11,429		10,880	11,210
成果指標による現状分析	文化財施設入込数については、中間目標をわずかに上回っている。シンクルトン記念館と桃崎浜文化財収蔵庫は予約制で奥山荘歴史館は、土日祝日の開館であるが、胎内市美術館については増加している。								

3 施策の進捗状況

達成度	○ 概ね順調
評価の理由	伝統芸能等保護活動団体数及び文化財施設の入込数については、目標を達成しているが、国県市指定文化財数についても目標の80%以上を達成している。

4 取組の状況と今後の方向性

① 文化財の調査と保護

施策の内容
<ul style="list-style-type: none">・貴重な歴史・文化資源が失われないよう、遺跡の調査・発掘、郷土資料の収集・保管、収集済の文化財の保存・活用を計画的に行う。・分散して立地している複数の文化財関連施設で巡回展を開くなど、市民が多く歴史・文化に触れ、学ぶことができる機会を提供する。
これまでの主な取組と実績
<ul style="list-style-type: none">・史跡城の山古墳については、今後、史跡を保存し整備活用へと進めるため整備基本活用計画の策定作業を実施した。・史跡奥山荘城館遺跡確認調査・奥山荘城館遺跡及び羽黒館測量・市内遺跡（鳥坂城跡、下町・坊城遺跡、筒田遺跡、馬場平遺跡）調査報告書の作成
主な課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none">・各施設と連携して、美術館と共同で展示・公開を進める。・城の山古墳の保存活用計画に基づいて、整備基本計画を策定する。・老朽化施設の維持管理

② 伝統文化の保存と継承

施策の内容
<ul style="list-style-type: none">・生涯学習や地域活性化の取組と連携して、各集落に伝わる神楽舞や獅子舞等の伝統芸能や祭り等の行事を継承する団体等への新たな支援策を検討します。・学校との連携により、総合学習やふるさと体験学習の中で、子どもが地域の歴史や伝統芸能に触れる機会を増やします。
これまでの主な取組と実績
<ul style="list-style-type: none">・指定文化財等の補助として、1団体に補助金を交付し、支援した。・昔のくらしや歴史について、学習を深めるため市内外の小中学校に学習券又は利用券を配布した。
主な課題と今後の対応
高齢化に伴う地域芸能の衰退に鑑み、ビデオ撮影等を実施して保存を図ります。 学校教育において、民具を活用した生活文化についての機会を設けます。

③ 歴史・文化資源を生かした地域の活性化

施策の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財シンポジウムの開催や説明板の設置、既存の史跡公園等施設の積極活用やICTを活用した文化財に関する多角的な情報発信に取り組めます。 ・寺・神社を中心とした祭礼等の営み、周りの市街地景観といった周辺環境も含めた文化財を取り巻く歴史的風致の維持等に取り組めます。 ・地域の活性化に取り組む市民団体の支援や地域の魅力発見やモデルルートの作成、語り部の育成等の講座の開設等を通じて、その土地の物語を掘り起こし、発信する取組を支援します。 	
これまでの主な取組と実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・城の山古墳見学会や美術館企画展ごとの講演会、鳥坂城跡など史跡の説明板設置等を実施した。 ・板額の宴を市民団体の「板額会」とともに規模を縮小しながらも実施し、地域の活性化を実現した。 ・美術館では、サポーターズクラブより美観の維持・展示会の補助（受付・椅子の設置・撤去）等ご協力いただいた。また、談話室を用いた小展示や昔語りなどを随時実施してきている。 ・古墳出土品の復元品などを作成し活用した。 	
主な課題と今後の対応	
<p>史跡シンボや説明板の設置、整備活用を図ります。 有形登録文化財（古い建造物）を町歩き等に活用し、市民に胎内市のよさをアピールします。 歴史講座等を通じて、市民ボランティア活動を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営上の事務の一部を市が担うなど「補助金等のあり方に関するガイドライン」にそぐわない状況が続いているため整理が必要 ・中条まつり実行委員会への補助金の内訳について精査し、有効に活用されているか確認する。 ・露店出店者にゴミの取扱いについて周知し、不法投棄などが無くなるよう、また近隣住民の迷惑とならないよう努める。 ・城の山古墳出土品復元品を学校教育に活用していきます。 	

5 施策の今後の方針

施策方針	◎ 拡充
施策方針に関する説明	<p>城の山古墳を保存し、適切な調査研究、管理を行いながら次世代へ継承することと、加えて、市民が史跡を通して郷土の愛着やほこりを育み地域の活性化を図る。</p>

II 施策を構成する事業等

事業 コード	事務事業名	R2 事業費		R3 当初予算額		達成度	施策目標 に対する 貢献	今後の 方向性	主な事業	担当課
			うち 一般財源		うち 一般財源					
140110	文化財保護事業	2,424	2,422	2,549	2,539	○	○	②		生涯学習課
140111	史跡整備事業	4,225	2,989	14,701	5,785	○	○	①	○	生涯学習課
140112	遺跡発掘調査事業	11,234	7,060	7,251	4,899	◎	○	③		生涯学習課
140310	中条まつり事業	16	16	6,894	6,689	×	○	③	○	商工観光課
140322	史跡等総合活用事業	3,874	2,650	4,367	2,867	△	○	②		生涯学習課
140323	奥山荘歴史の広場等運営事業	1,848	1,768	2,169	1,934	△	○	③		生涯学習課
140320	郷土文化伝習館運営事業	2,653	2,560	2,747	2,387	○	○	③		生涯学習課
140321	郷土文化保存伝習施設(シンクルトン記念館)運営事業	1,043	1,027	1,279	1,249	○	○	③		生涯学習課
140324	美術館運営事業	8,506	6,973	9,044	8,248	○	○	②	○	生涯学習課

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140110		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	文化財保護事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	01	文化財の調査と保護		項	06	社会教育費
				小	10	文化財保護事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令	文化財保護法					
	法令による義務付け			努力義務+任意	関連条例			関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	文化財を適切に管理等するために、文化財保護審議会の開催や指定団体に補助金を交付する。その他文化財全般業務。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営管理 文化財保護審議会の開催 文化財整備事業 指定文化財等保存事業補助金交付
実施方法	市が直接実施+補助・負担

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	○	○	○	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	目標を概ね達成した。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

<ul style="list-style-type: none"> 登録有形文化財（建造物）に登録プレートを設置した。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	2,650	2,331	3,100	2,424	2,549
国・県支出金	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0
その他	24	9	0	2	10
一般財源	2,626	2,322	3,100	2,422	2,539
人件費（千円）	28	30	30	30	
正(h) ※事業費	15	16	16	16	16
会計年度 ※事業費任用(h)	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	2,678	2,361	3,130	2,454	
財源「その他」内訳	桃崎浜文化財収蔵庫使用料 2千円				
事業費の主な支出内容	補助金及び負担金266千円（市文化財等保存団体229千円+負担金37千円） 施設光熱水費3126千円 管理・警備委託946千円				
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

6 事業の課題

<p>市内に存在する文化財の洗い出しや、埋もれた文化財などの調査が不十分である。今後ワークショップ等を開催し、地域総がかりで、文化財保護活用計画を作成する必要がある。胎内市が後世にのこすべき文化財を抽出し、既存の文化財、文化施設の活用、整備について計画する必要がある。</p>

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	②	②	②	②	
<p>2019年4月に文化財保護法が改正施行され、各自治体ごとに「文化財保存活用地域計画」の作成が求められることとなった。地域計画は、各市町村が目指す目標や中長期的に取り組む具体的な内容を記載した文化財の保存・活用に関する基本的なアクションプランで、法律に位置づけられるものであり、早期の計画作成が必要となったため、本市としても取り組まねばならない。取り組むことにより補助事業の採択条件が優位となる。メリットとして地域計画が国の認定を受けた場合、当該計画に基づいて実施される取組に対し活用が可能となる。</p>					

3 指標値の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
産出指標	名称	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	
	目標	63件	63件	65件	65件	66件
	実績	60件	62件	64件	64件	
成果指標	名称	新規指定文化財の指定件数	新規指定文化財の指定件数	新規市指定文化財の指定件数	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等
	目標	1件	1件	1件	1件	1件
	実績	2件	3件	2件	1件	
	目標比	200.0%	300.0%	200.0%	100.0%	

8 二次評価委員会所見

<p>（二次評価委員会所見の記入欄）</p>					
------------------------	--	--	--	--	--

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	④	②	①	
	維持	⑤	③		
	縮小	⑥			
	休廃止	⑦			
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140111		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	史跡整備事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	01	文化財の調査と保護		項	06	社会教育費
				小	11	史跡整備事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令	文化財保護法					
	法令による義務付け			関連条例			関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	国史跡等を市民に公開活用するために奥山荘城館遺跡及び城の山古墳等の史跡整備を実施する。
主な実施内容	城の山古墳整備基本計画の策定（2,306千円）。史跡整備に関する旅費、負担金、除草経費など（683千円）。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	◎	◎	○	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	目標どおり概ね達成できた。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

奥山荘城館遺跡は随時整備を進めてきており、2022年より城の山古墳の史跡整備を重点的に実施する予定である。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	8,089	747	4,700	4,225	14,701
国・県支出金	5,728	0	1,500	1,236	8,916
地方債	0	0	0	0	0
その他	20	0	0	0	0
一般財源	2,341	747	3,200	2,989	5,785
人件費（千円）	0	371	361	322	
正(h) ※事業費	0	200	190	170	160
会計年度任用(h) ※事業費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	8,089	1,118	5,061	4,547	
財源「その他」内訳					
事業費の主な支出内容	城の山古墳整備基本計画の策定2,306、賃金334、需用費115、負担金50				
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

6 事業の課題

史跡整備基本計画策定にあたり住民ニーズを把握する必要がある。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	公有化面積/確認調査面積	公有化面積/確認調査面積	公有化面積	公有化面積	公有化面積
	目標	325.21㎡/200㎡	0㎡	0㎡	4,241㎡	4,2410㎡
	実績	325.21㎡/212㎡	0㎡	0㎡	0㎡	
成果指標	名称	公開活用史跡数	公開活用史跡数	史跡整備終了地	史跡整備終了地	史跡整備終了地
	目標	6地点	6地点	6地点	6地点	6地点
	実績	6地点	6地点	6地点		
	目標比	100.0%	100.0%	100.0%		

7 課題解決に向けた今後の取組

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
今後の方向性	②	①	①	①	
<p>城の山古墳が2019年2月26日付けで国史跡に指定。今後、市民の意見を聞きながら整備基本計画を策定し、史跡整備を推進していく必要がある。 奥山荘城館遺跡については、鳥坂城跡の確認調査を継続しているが、2020年度で一旦休止し、城の山古墳の公有化整備を進めていく予定である。ただし、坊城館跡の土地買い上げの要望があり、対応する必要がある。土地購入については、財源の絡みから財政課と協議・検討したい。令和2年度については整備基本計画の策定作業に取り組み、次年度に策定後、史跡整備に取り掛かる予定。</p>					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140112		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	遺跡発掘調査事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	01	文化財の調査と保護		項	06	社会教育費
				小	12	遺跡発掘調査事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務	○	自治事務	○	根拠法令	文化財保護法		関連計画		
	法令による義務付け		義務+任意		関連条例					

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	各種緊急調査及び重要遺跡・史跡の発掘調査に関する事業
主な実施内容	個人住宅・開発にかかわる確認調査3件及び、史跡内容確認調査として鳥坂城跡の調査を実施し、年度末に報告書を刊行した。 また、集合住宅建設に伴う緊急本発掘調査を実施し、年度末に報告書を刊行した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	◎	◎	◎	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	本年度の事業を実施し、報告書を刊行した。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

(該当なし)

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	9,993	6,403	11,733	11,234	7,251
国・県支出金	4,455	3,450	3,450	1,350	2,331
地方債	0	0	0	0	0
その他	0	1,070	1,020	2,824	21
一般財源	5,538	1,883	7,263	7,060	4,899
人件費（千円）	1,326	4,646	3,775	3,692	
正(h) ※事業費	720	800	690	670	
会計年度 ※事業費	0	3,719	2,900	2,700	
任用(h) ※事業費					
総事業費+人件費	11,319	11,049	15,508	14,926	
財源「その他」内訳	事業者負担金1000、雇用保険料67				
事業費の主な支出内容	賃金3,829、消耗品356、印刷製本費934、測量委託495、借上げ費776				
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

6 事業の課題

担当職員が限られていることから、いかに効率的に事業を進めるかが課題である。

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	
現在は、個人住宅建設に伴う確認調査などの小規模な調査が続いているが、県営圃場整備事業に伴う大規模な調査が令和3年度以降始まる。 したがって、早急に対応できる人材を育成し、文化財保護に遺漏のないように対応する必要がある。 なお、史跡整備に伴う鳥坂城跡の確認調査は、令和2年度で一旦休止する。					

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	発掘調査数	発掘調査数	発掘調査数	発掘調査数	発掘調査数
	目標	3件	2件	2件	3件	3件
	実績	4件	5件	6件	3件	
成果指標	名称	報告書作成数	報告書作成数	報告書作成数	報告書作成数	報告書作成数
	目標	1件	1件	1件	1件	2件
	実績	1件	2件	2件	2件	
	目標比	100.0%	200.0%	200.0%	200.0%	

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140310		担当課	商工観光課		担当係	商工振興係		担当者		
事務事業名	中条まつり事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化		予算科目	款	07	商工費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化			項	01	商工費
				小	10	中条まつり事業			目	02	商工業振興費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令							
	法令による義務付け			関連条例	中条まつり補助金交付要綱		関連計画				

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	伝統芸能である山車のあおりなどのイベントや露店の円滑な運営による祭りを通じた地域活性化を行う。	
主な実施内容	来場者、参加者の安全確保、中条まつり実行委員会への補助、露店商の出店管理	
実施方法	市が直接実施+委託	

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	△	○	×	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	新型コロナウイルスの感染拡大を受け、露店出店を中止したため。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

・露店出店料金について、近隣市に比べ低い水準となっていたため、露店出店者代表者と話し合い、R2年度から出店料金を値上げすることの了承を得た。しかしながら、R2年度は新型コロナウイルスの影響により露店出店を中止したため、実施とはならなかった。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	6,214	6,333	6,264	16	6,894
国・県支出金	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0
その他	114	93	95	0	205
一般財源	6,100	6,240	6,169	16	6,689
人件費（千円）	600	606	618	0	
正(h) ※事業費	291	291	291	0	
会計年度任用(h) ※事業費	77	77	77	0	
総事業費+人件費	6,814	6,939	6,882	16	
財源「その他」内訳	消費品費：16千円				
事業費の主な支出内容					
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

6 事業の課題

・年々露店の出店者が減少傾向にあったのに加え、今年度の露店出店の中止により、再開した際のさらなる減少が考えられるため、出店者数を確保する方法を考える必要がある。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	露店出店数（3日間延）	露店出店数（3日間延）	露店出店数（3日間延）	露店出店数（3日間延）	露店出店数（3日間延）
	目標	350件	350件	350件	350件	350件
	実績	342件	287件	286件	0件	
成果指標	名称	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数
	目標	33,200人	33,200人	28,900人	33,200人	33,200人
	実績	34,000人	23,800人	26,000件	0人	
	目標比	102.0%	71.6%	90.0%	0.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	
・露店出店者数を確保するために露店代表者と協議を行う。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140322		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	史跡等総合活用事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
				小	22	史跡等総合活用事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		根拠法令	文化財保護法						
	法令による義務付け		努力義務+任意	関連条例			関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	史跡の価値を市民に知ってもらうために活用に関するイベントを開催し、出土品の理解を助け、出前授業等に用いるために学校教育の教材作成（城の山古墳出土品の複製品）を実施した。
主な実施内容	板額の宴を実施し、歴史講演会等を実施した。また、城の山古墳出土の剣・玉類・工具類・靱蓋を復元した。
実施方法	市が直接実施+委託

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	△	◎	○	△	
評価の理由	コロナ禍により規模を縮小して実施したため、参加者数は減少した。				

◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない

5 改革の実施状況（平成29年度～）

教材用ビデオ、復元品を校外授業等で活用することができた。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	8,170	7,203	7,270	3,874	4,367	
国・県支出金	3,880	3,200	2,400	1,224	1,500	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
一般財源	4,290	4,003	4,870	2,650	2,867	
人件費（千円）	92	594	0	0	0	
正(h) ※事業費	50	320	0	0	0	
会計年度 ※事業任用(h)	0	0	0	0	0	
総事業費+人件費	8,262	7,797	7,270	3,874		
財源「その他」内訳	印刷製本費605千円、イベント委託費1,633千円、イベント借上料88千円					
事業費の主な支出内容	印刷製本費605千円、イベント委託費1,633千円、イベント借上料88千円					
単位コスト	算出方法	3,824千円/1,600人				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		2,206円	790円	1,328円	1,912円	

6 事業の課題

次世代への継承など。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	イベント数	イベント数	イベント数	イベント数	イベント数
	目標	4回	4回	4回	4回	4回
	実績	4回	2回	3回	2回	
成果指標	名称	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数
	目標	2,500人	2,550人	2,600人	2,600人	2,600人
	実績	1,550人	4060人	2,900人	1,600人	
	目標比	78.0%	159.0%	111.5%	62.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	②	②	②	②	
市民協働イベントとしての板額の宴のよりよい継続スタイルを考える。史跡城の山古墳の出土品のレプリカを活用した学校等への出前授業、校外授業を実施する。また史跡についての歴史講演会等を実施し、「歴史のまち胎内」を市内外にPRしていく。史跡をより良く知ってもらうため、各施設（胎内市美術館・奥山荘歴史館・黒川郷土文化伝習館）と連携し、史跡と点と点で繋げていきたい。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	④	②	①	
	維持	⑤	③		
	縮小	⑥			
	休廃止	⑦			
	削減	縮小	維持	拡大	
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140323		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	奥山荘歴史の広場等運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
				小	23	奥山荘歴史の広場等運営事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		根拠法令	文化財保護法						
	法令による義務付け		努力義務+任意	関連条例	奥山荘歴史の広場条例		関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	史跡を市民に公開するために、奥山荘歴史の広場等の運営・維持管理を行う。
主な実施内容	奥山荘歴史館の運営管理を実施し、江上館・坊城館・韋駄天山遺跡等の除草管理・野外トイレ管理等を実施した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	△	○	○	△	
評価の理由	コロナ禍の影響で入館者数・団体数とも目標を下回った。				

◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない

5 改革の実施状況（平成29年度～）

開館日を令和元年度から土日祝日とし、平日は予約制とし、運営費の削減に務めている。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	2,971	2,228	2,170	1,848	2,169	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	302	79	29	80	235	
一般財源	2,669	2,149	2,141	1,768	1,934	
人件費（千円）	44	119	85	78		
正(h)	24	64	45	41		
会計年度任用(h)	0	0	0	0		
総事業費+人件費	3,015	2,347	2,255	1,926		
財源「その他」内訳	入館料14・資料販売料27・史跡地賃借料39					
事業費の主な支出内容	賃金496、光熱水費910、警備委託149					
単位コスト	算出方法	入場者一人当たり収支				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		2,661円	1,790円	2,607円	4,348円	

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	210日	210日	81日	81日	81日
	実績	210日	210日	81日	81日	
成果指標	名称	入館者数及び団体利用数	入館者数及び団体利用数	利用団体数	利用団体数	利用団体数
	目標	1500人 20団体	1500人 20団体	12団体	12団体	12団体
	実績	1003人 15団体	1198人 14団体	12団体	8団体	
	目標比	67%・75%	80%・70%	100.0%	66.0%	

6 事業の課題

大きな単発的なイベントだけではなく、いつでも体験できるワークショップの実施なども必要。会計年度任用職員のスキルアップも図る。

7 課題解決に向けた今後の取組

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
今後の方向性	⑥	③	③	③	
利用状況に応じた開館日に見直して効率的な運営を行うことで、経費の削減を図る。史跡城の山古墳、史跡江上館の価値づけをし、学校の授業、校外学習でも活用してもらうよう積極的にPRを行う。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140320		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	郷土文化伝習館運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
				小	20	郷土文化伝習館運営事業		目	08	郷土文化伝習館費
事務区分	法定受託事務		根拠法令	文化財保護法						
	法令による義務付け		努力義務+任意	関連条例	黒川郷土文化伝習館設置条例		関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市民に郷土の歴史を知ってもらい、体験学習を実施するため郷土文化伝習館の運営管理を行う。
主な実施内容	郷土文化伝習館を開館し、郷土の歴史文化を市内外に紹介した。また小中学校の校外学習、体験学習を毎年実施した。併設する美術館と共通券を発行し、共同で企画展、講演会、資料の収集等を行った。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	○	○	○	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	市民をはじめ、小中学校生徒や、市外団体にも郷土の歴史文化を伝えることができた。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

県から譲与された埋蔵文化財や、美術館所蔵品を加えて展示替えを実施した。また、小中学校の学習テーマに合わせて、縄文・弥生・民俗の体験展示コーナーを見直した。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	2,528	2,581	2,676	2,653	2,747
国・県支出金	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0
その他	400	156	143	93	360
一般財源	2,128	2,425	2,533	2,560	2,387
人件費（千円）	1,203	1,189	1,179	1,222	
正(h) ※事業費	80	82	79	77	
会計年度任用(h) ※事業費	1,264	1,220	1,210	1,200	
総事業費+人件費	3,731	3,770	3,855	3,875	
財源「その他」内訳	入館料 93千円				
事業費の主な支出内容	賃金1,203千円、警備委託324千円、光熱水費631千円				
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

6 事業の課題

平成17年の町村合併以来の歴史資料、考古資料の増加などにより展示構成を見直す時期となっている。また校外学習の利用率が高く、市の学習拠点として明確に位置づけていく必要がある。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	210日	210日	210日	210日	210日
	実績	210日	210日	210日	210日	
成果指標	名称	利用団体	利用団体	利用団体	利用団体	利用団体数
	目標	45団体	46団体	47団体	47団体	47団体
	実績	40団体	46団体	47団体	47団体	
	目標比	88.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	②	③	③	③	
<p>会計年度任用職員、正職員のスキルアップを図り、事業に対する明確な目標を設定する。具体的にはここでしか体験できない昔のくらしや民具を体験するコーナーの整備PR、勾玉づくり、火おこしなど体験学習メニューの充実などを図り積極的にPRする。また美術館と連携した企画展を実施し、利用者数を伸ばしていくこととする。</p>					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140321		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
				小	21	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業		目	12	郷土文化保存伝習施設費（シンクルトン記念館）
事務区分	法定受託事務		根拠法令	文化財保護法						
	法令による義務付け		努力義務+任意	関連条例	郷土文化保存伝習施設設置条例		関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市民に史跡・天然記念物を公開するためにシンクルトン記念館の管理運営を行う。
主な実施内容	シンクルトン記念館を開館し、郷土の歴史文化を市内外に紹介した。また小中学校の校外学習、体験学習を通年実施した。黒川燃水祭を通して地域の歴史伝承に貢献した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	○	○	○	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	市民をはじめ、市外団体にも郷土の歴史文化を伝えた。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

小中学生にわかりやすいようにパネルなどを増やし展示替えを実施した。油井戸周辺、公園内のフェンス設置、補強などを実施し、体験活動の充実を図った。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	2,281	2,647	978	1,043	1,279
国・県支出金	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0
その他	157	121	16	16	30
一般財源	2,124	2,526	962	1,027	1,249
人件費（千円）	1,107	1,097	0	3	
正(h) ※事業費	50	51	0	1	
会計年度 ※事業任用(h)	1,216	1,179	0	1	
総事業費+人件費	3,388	3,744	978	1,046	
財源「その他」内訳	入館料 16千円				
事業費の主な支出内容	警備・浄化槽委託501千円、光熱水費397千円、借地料54千円				
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

6 事業の課題

国内でも極めて珍しい施設であり、いかにPRしていくかが課題である。また公園内遊歩道の誘導整備も必要。ボランティアガイドの育成も急務である。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	210日	210日	10日	10日	10日
	実績	210日	210日	13日	13日	
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数
	目標	10団体	11団体	5団体	5団体	5団体
	実績	10団体	11団体	5団体	5団体	
	目標比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
今後の方向性	⑥	⑥	③	③	
利用状況に応じた開館日に見直して効率的な運営を行うことで、今後も経費の削減を図る。予約時のみ開館とするが、土日に集中するため、地元に管理委託することや市民協働で対応できる体制をつくりたい。本公園のメインである油坪を全面に押し、修学旅行の誘致に務める。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	140324		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者			
事務事業名	美術館運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	1	子育て・教育・学び	事業コード	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
施策	4	郷土の歴史・文化		中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
				小	24	美術館運営事業		目	14	美術館費
事務区分	法定受託事務		〇	自治事務		〇	根拠法令	文化財保護法		
	法令による義務付け			義務+任意			関連条例	胎内市美術館設置条例		関連計画

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市民の芸術文化に対する関心に応えるため、胎内市美術館の運営管理を行う
主な実施内容	年5回の企画展（浮世絵名品展・中村隆イラストレーション展・山崎順平 日本画回顧展・島田桃子ハワイアンキルトManaの世界・小川芋銭 酒井三良展）を開催した。またオリジナル缶バッジづくり・思い出のマイバックづくり・漆の植付けづくり・プルメリアポーチづくり等のワークショップ、演奏会、歴史講座・乙宝寺三重塔建立400年記念シンポジウムなども実施した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	◎	◎	○	
評価の理由	コロナによる臨時休館があり、産出指標が目標値を下回ったが、魅力ある企画展や豊富なワークショップをPRし、来館者が前年度よりも増加した。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

小中学校に呼びかけ、校外学習の場として利用いただいた。また年間パスポートの実施によりリピーターが増加し、利用者の利便性を高めた。サポーターズクラブメンバーとの協働により、美化活動・ワークショップ等を随時実施し、市民の視点からの改良も行った。地元に着目した展示を行い、地域の文化振興に大きく寄与しているといえる。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	9,198	7,898	7,466	8,506	9,044	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	848	1,113	669	1,533	796	
一般財源	8,350	6,785	6,797	6,973	8,248	
人件費（千円）	368	390	399	398		
正(h)	200	210	210	210		
※事業費 会計年度 任用(h) 〇	3,833	3,585	3,450	3,626		
総事業費+人件費	9,566	8,288	7,865	8,904		
財源「その他」内訳	入館料 1,533千円					
事業費の主な支出内容	賃金3,253千円、光熱水費1,198千円、印刷製本993千円、通信運搬費232千円、警備委託410千円					
単位コスト	算出方法	入館者数一人当たり運営コスト（総事業費+人件費/入館者数）				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		1,723円	1,169円	1,264円	1,090円	

6 事業の課題

- ・次世代への継承
- ・企画の立案、例えば胎内市出身著名作家の成長がわかるように展示と趣を変えた展示を心掛ける。
- ・広い視野での取組み、例えば自然誌や胎内市に伝わる文化など、多方面の展示を展開し、美術館の概念を広くとらえ地域の文化振興の発展に帰するよう様々な取り組みなど。
- ・作家と美術館と地域の方が、ともに成長していく道程の構築。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	310日	310日	310日	310日	310日
	実績	310日	310日	310日	230日	
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数
	目標	50団体	51団体	52団体	52団体	52団体
	実績	50団体	51団体	52団体	52団体	
	目標比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	②	③	③	②	
年4～5回の企画展示会を円滑に進めるため、職員各自のスキルアップを図る。分担して効率的に事業を推し進めて行く必要がある。経験や実績により事業内容に趣向を凝らしながら、事業運営の強化を関係期間と連携しながら図りたい。 無料の談話室スペースを活用した小展示や気軽に楽しめるワークショップをアイデアを凝らしながら実施し、市民に親しまれる美術館づくりを継続していきたい。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性	拡充	◎	④	②	①
成果の方向性	維持	◎	⑤	③	◎
	縮小	◎	⑥	◎	◎
	休廃止	◎	◎	◎	◎
	削減	◎	◎	◎	◎
	縮小	◎	◎	◎	◎
	維持	◎	◎	◎	◎
	拡大	◎	◎	◎	◎
	コスト投入の方向性				